

[Kaffeeklatsch] 10

スマトラ島アチェ・ガヨ・タケンゴンにコーヒーの力を

広島修道大学教授 中根 光 敏

5年8ヶ月の間、待ち焦がれていたスマトラ島への訪問が2025年10月31日～11月9日の日程で叶った。スマトラ島へは訪れる度に新しい発見があり、いつも感心させられるのであるが、今回はこれまで以上に格別な旅となった。

11月2日、12時間かけて、北スマトラ州メダンからアチェ州タケンゴンへ向かう途中だった。アチェ州に入ると、街々でクルマの窓から`GAYO、`KOPI、`KUPI、`Coffee、の文字が入ったカフェの看板が目につくようになった。ガヨ山脈に入って、サラクSalakという見晴らしの良い高地でもガヨ珈琲を提供するカフェが数軒できていた。こうした変化が、アチェ州のコーヒーツーリズム政策と関係しているということを知ったのは、最高級マンデリンの産地・タケンゴンTakengonに着いてからだだった。



野生の麝香猫の糞
(2025年11月5日)

私がコーヒー都市と呼ぶタケンゴンはさらなる変貌を遂げていた。コーヒーツーリズムによって、インドネシア国内からの旅行者が増え、街は活気に溢れていた。マイクロミル（現地ではまだ呼び名はない）を備えた農園が増え、精製方法によるgreen beansの差別化が進んでいた。さらに、タケンゴンには、焙煎に特化したロースターが200軒近くにまで増えていて、これらの店ではgreen beansを持ち込めば1kgあたり200円程度で焙煎を請け負っていた。驚いたのは、飛躍的に進歩した焙煎技術である。スマトラ式、ナチュラル、ロングベリー、ピーベリーなどのgreen beansを香味の違いで楽しめるように見事に煎り上げる。

11月5日朝には、生涯忘れられない好運に恵まれた。コーヒー農園内に手作りされた休憩所みたいな小屋で、野生の麝香猫の糞（写真）にお目にかかれたのである。これまで夜間のスコールによって洗われバラバラになった糞や人工飼育の糞は見たことがあったけれども、野生の麝香猫の糞に遭遇できたのは初めてである。

11月9日にメダンを発つ際、私の滞在期間にほとんどスコールに遭わなかったことに気づき、何か嫌な予感がした。11月23日、マラッカ海峡付近で発生したサイクロンによって、スマトラ島は甚大な被害を受けた。陸路が遮断され、停電し物資が底を突く状況で、タケンゴンの友人たちが無事を知らせてくれたのは、12月3日深夜だった。

これからスマトラ島・タケンゴンが災害復旧・復興していく際に、私はコーヒーが大きな力を発揮すると考えている。コーヒー都市タケンゴンが復旧・復興していくことを願うとともに、私は`コーヒーの力、を信じている。

【付記】本稿は2025年度広島修道大学調査研究費（ひろみら領域研究）を受けて行っている「グローバル化と社会変容」と題した共同研究の成果の一部である。